

2022 年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

4 年次終了時確認の報告書

教育指針に関する検討委員会

目次

人間総合学群

| | |
|---------------------|------|
| 人間文化学類日本文化専攻 | 1 頁 |
| 人間文化学類人間関係専攻 | 8 頁 |
| 人間文化学類英語コミュニケーション専攻 | 19 頁 |
| 観光文化学類 | 24 頁 |
| 心理学類 | 31 頁 |
| 住空間デザイン学類 | 33 頁 |

人間健康学部

| | |
|--------|------|
| 健康栄養学科 | 43 頁 |
|--------|------|

看護学部

| | |
|------|------|
| 看護学科 | 50 頁 |
|------|------|

令和 5 年 2 月 24 日

日本文化専攻 「学修到達度の確認」実施報告書

1. 実施方法

【目的】

日本文化専攻のディプロマ・ポリシーから導き出された 8 項目の学修指針（教育目標）に対する学修成果について、4 年終了時における到達度を確認することを目的とする。

【方法】

「学修到達度の確認」を用いて、4 年次の 1 月に実施した。具体的には GWE の Classroom を利用し、対象学生に「学修到達度の確認」用紙を Google スプレッドシートで掲出し、パソコン上で入力し提出させた。手順は以下の通り。

- 1) 8 つの学修指針の各項目について、学習到達度確認表の各到達レベルの内容を参考に、1~4 の 4 段階で自己診断した数値を入力する。
- 2) 各項目への自己診断をもとに、「自己評価コメント」を記入する。

2. 集計結果

【回答者数】

- ・ 4 年生 46 名（2019 年度入学者 44 名・2018 年度入学者 2 名）
- ・ 回答者 43 名 未回答者 3 名（うち 1 名は留年者）

【集計】

- ・ 8 項目の学修指針ごとに、自己診断の平均値等を集計（別紙「集計結果」）
- ・ 全対象者が記入した「自己評価コメント」を集計（別紙「自己評価コメント」）

（表 1：平均値・最大値・最小値）

| | 教養力 | 人間性 | コミ力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平均値 | 3.2 | 3.0 | 2.8 | 3.0 | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.7 |
| 最高値 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 最低値 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |

（参考）2 年終了時

| | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平均値 | 2.7 | 2.6 | 2.2 | 2.6 | 2.6 | 2.3 | 2.2 | 2.3 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

(表2：実数)

| 評価 | 教養力 | 人間性 | コミ力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4 | 12 | 7 | 9 | 11 | 11 | 7 | 2 | 5 |
| 3 | 28 | 31 | 20 | 25 | 25 | 21 | 23 | 22 |
| 2 | 3 | 5 | 13 | 6 | 5 | 14 | 16 | 15 |
| 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 |

(表3：昨年度(2021年度)卒業生の4年終了時の平均値〈参考〉)

| | 教養力 | 人間性 | コミ力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平均値 | 3.5 | 3.3 | 3.2 | 3.2 | 3.4 | 3.1 | 3.0 | 3.2 |

(表4：一昨年度(2020年度)卒業生の4年終了時の平均値〈参考〉)

| | 教養力 | 人間性 | コミ力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平均値 | 2.8 | 2.8 | 2.6 | 2.7 | 2.7 | 2.4 | 2.3 | 2.4 |

3. 検証結果

平均値は、すべての項目で2年終了時の数値を上回っている。2年次のデータは未提出者10名があるので、一概に比較対象としてよいか判断しにくいところだが、ほとんどの学生が4年間の学修成果を肯定的に実感していることが明らかとなったと判断できる。

ただし、昨年度の卒業生の平均値が、どの項目も3.0以上であったことと比較すると、本年度はすべての項目で低下傾向がみられる。ただし、一昨年度と比較すると本年度は良好という事ができる。

こうした変動の理由は今のところ確定的ではないが、一因としてコロナウイルスによる遠隔授業化の影響があるかもしれない。一昨年度は4年次のみ、昨年度は3・4年次、本年度は2・3年次に遠隔授業となった。比較的数値の高かった昨年度卒業生は、1・2年次が平常授業であって、専門科目も平常で受講している。いわば大学生としての基礎ができてから3・4年次で遠隔授業となったので、それを乗り越えたという達成感が、全体的な肯定的評価につながった可能性がある。一方、本年度卒業生は、学群所属の1年次が平常で、専門科目が多くなる2・3年次に遠隔となったので、4年次が平常に戻ってからも、4年間を振り返ったときにやや否定的な評価となったものかもしれない。

平均値を項目別にみると、「教養力」「専門力」が「3.2」「3.0」と高く、「技術力」「判断力」が「2.6」「2.7」と低かった。この傾向は昨年度および一昨年度にも共通する。本年度卒業生で特殊なのは、「コミュニケーション力」が「2.8」とかなり低いことである。過去の傾向では「コミ力」は高い方であった。カリキュラム上での大きな変更は実施していないので、これもまたコロナウイルスによる遠隔授業化が大きくかかわっている可能性がある。

4. 結果に対する評価

学生からの自由記述を見ると、評価点が低い場合にもしっかりと自己分析できているケースが多く、当該学生のすべてが学位授与にふさわしいレベルにまで達している様子が確認された。

5. 今後の課題

自己評価コメントを見ると、たとえば以下のように、やはり2～3年次のオンライン授業の影響に触れているものが散見された。

コロナ禍で2年3年をオンライン授業を経ての全対面授業で、あまり授業に身が入っていないように感じたため、今後何かしらで学ぶ機会があれば集中して行っていきたいと思った。

2023年度の4年生は、1～2年次がオンライン授業であった学年に当たるので、残り1年の対面授業において、十分なフォローを行うことが課題となろう。

以上

人間文化学類人間関係専攻「学修到達度の確認」調査結果報告書

2023年2月28日 人間関係専攻

1. 調査概要

調査目的：学生の学修到達度自己診断結果の現状を把握し、今後の教育の質的向上を図るため

実施期間：2023年1月28日～2023年2月22日

実施方法：ウェブアンケート調査（Google フォーム利用）

対象者：2022年度人間関係専攻4年在籍者

回答者数数/対象者数：61名/93名（うち、3名は休学中）（回答率 65.6%）

質問内容：

人間関係専攻学修到達度確認表にもとづき、「教養力」「人間性」「コミュニケーション力」「社会性」「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」の8つの能力等に関する自己評価について、それぞれ、4「非常に身についた」(lv.4)、3「かなり身についた」(lv.3)、2「身についた」(lv.2)、1「少しは身についた」(lv.1)の4段階での回答を得た。また、4年間の学修到達度に関する自己評価について、自由記述での回答を得た。

質問紙は参考資料①を参照。

2. 集計結果

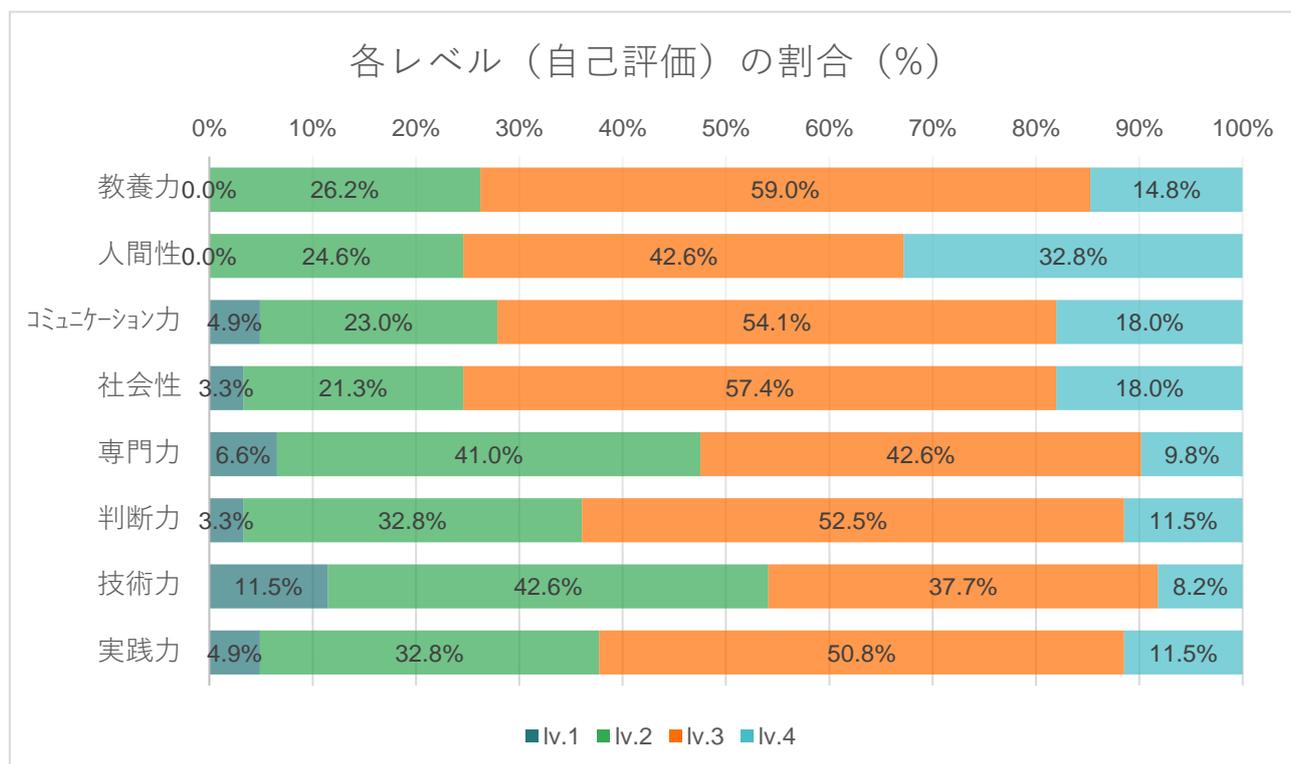
表1) 平均値

| | 教養力 | 人間性 | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|-----|-----|-----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 平均値 | 2.9 | 3.1 | 2.9 | 2.9 | 2.6 | 2.7 | 2.4 | 2.7 |

表2) 8つの能力等について各レベルを選択した学生の人数（人）

| | 教養力 | 人間性 | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|------|-----|-----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| lv.4 | 9 | 20 | 11 | 11 | 6 | 7 | 5 | 7 |
| lv.3 | 36 | 26 | 33 | 35 | 26 | 32 | 23 | 31 |
| lv.2 | 16 | 15 | 14 | 13 | 25 | 20 | 26 | 20 |
| lv.1 | 0 | 0 | 3 | 2 | 4 | 2 | 7 | 3 |

図1) 学修到達度確認表 8 能力等における各レベル（自己評価）の割合（％）



3. 検証結果

人間関係専攻のカリキュラムポリシーに基づく学習到達度の測定の実施結果をまとめると以下のようになる。

各能力等の自己評価の平均値は表 1 の通りである。2 年次実施の調査では 5 段階評価で回答を得ていたため、2 年次との比較は省略する。

図 1 に示された通り、学修指針に示される 8 つの能力のうち、「教養力」「人間性」「コミュニケーション力」「社会性」で 4 段階評価のうち 4 「非常に身についた」(lv.4) と 3 「かなり身についた」(lv.3) を選択したものの合計がいずれも 70% を超えた。「判断力」「技術力」についても 60% を超えている。

一方で、「専門力」では 52.5%、「技術力」では 45.9% とやや低い結果であった。このうち、「専門力」については、大学教育の要であることからとくに改善が必要である。推測される原因としては、専門力を学生に伝達するには、教員のスキルと教育効果がでるまでに多大な時間が必要であるにもかかわらず、人間関係専攻では教員数に比して学生数が過度に多いことが挙げられるだろう。専門分野の必修授業でも履修者が 100 名程度ということが続き、個々の学生の学修到達度を十分にケアすることができなかった。また、一般的な感覚として、「専門力」は、たとえば「コミュニケーション力」等と比して、「自分がその能力を身につけた」と主観的な評価を下すことへのハードルが高い点も考慮しておく必要があるだろう。また、「技術力」については、1 「少しは身についた」(lv.1) が 11.5% と 1 割以上の学生が効果を感じていない。これについては、そもそも「技術力」の育成には「教養力」などに比して、大学の外での教育や訓練が必要となることが考えられるだろう。人間関係専攻のカリキュラムは、相対的に技術力よりも教養や専門性の獲得を目指して作成されているため、当然の結果ともいえる。また、コロナウイルスの流行により、課外活動等が制限されたことが影響している可能性もある。

DP の達成に関しては、表2 から、最も低い評価である1 「少しは身についた」(lv.1) を選択した人数に着目してみると「教養力」「人間性」では0 人であることから、十分に達成できたと考えられる。「コミュニケーション力」(3 人)、「社会性」(2 人)、「専門力」(4 人)、「判断力」(2 人)、「実践力」(3 人)では少数ではあるが、lv.1 を選択した者がいる。さらに「技術力」では7 人の学生がlv.1 を選択していることから、これらについては改善が求められる。

自由記述欄(添付資料②)を見ると、学生たちも大学生活がコロナ禍と重複したことに言及している。しかしその中でも、オンライン/オンデマンド授業での課題が成績に反映されるシステムが「私にとって成長する転機」だったと捉えたり、「しっかりと順応し行動できた」と評価したりなど、学生たちが柔軟に対応しながら成長した様子が見てとれる。また、「一つの問題について、他の方の様々な考え方を聞くことで、私自身の思考も刺激され、柔軟性が身についた」「多くの学生とコミュニケーションをとる機会が多く、価値観を知り、協調性を身につけ、深く議論を交わすことができ、自身の軸を強く持つことが出来ました」などの意見からは、多様な専門分野からなるカリキュラムという人間関係専攻の特性がしっかりと効果を上げていたことも確認できた。

4. 今後の課題

以上のことから、今後はまず、教員数と学生数の適切なバランスを保ち、本学の特徴である少人数で丁寧な教育を実施したい。そのためにはまず、入学者数(専攻進級者数)に上限を設けることが必要である。とくに、本調査が学生の「自己評価」である特性を考慮すると、学生の「主観的」な到達度を向上させるためには、教員が学生一人ひとりに「成長」を伝えたり、それぞれのレベルに合わせた指導をしたりする時間が不可欠である。

「専門力」については、専門科目の授業内容や運営方法を各教員が見直すとともに、「技術力」については、講義科目であっても授業時間内に知識を実践的に活用する時間を設けるなどの工夫ができるかもしれない。

また、「人間関係専攻学修到達度確認表」に示される項目の妥当性についても検証が必要だろう。たとえば「人間性」について自身のレベルを答えさせることは、大学教育の枠を超えていないだろうか。

今回の結果を専攻教員で共有し、今後の教育に役立てたいと思う。

(文責：大貫)

学修到達度に関する自己評価（人間関係専攻）

2022年度の4年生の皆さん

皆さんの大学での学修がどの程度達成されたかについて、皆さん自身の自己評価をお聞きします。

ここで回答した自己評価によって、成績、大学生活、その他において、皆さんに有利/不利が生じることは一切ありません。思った通りに回答してください。

※以下、8つの択一式の設問と、1つの自由記述式の設問があります。ご協力よろしくお願いたします。

***必須**

1. メールアドレス *

各技能の到達度について

以下8つの技能がどの程度身についたかを自分自身で判断し、それぞれについて、以下のいずれかを選択してください。

レベル4（秀）：非常に身についた

レベル3（優）：かなり身についた

レベル2（良）：身についた

レベル1（可）：少しは身についた

なお、各技能のレベル詳細についてはフォーム末尾の学修指針詳細説明を参照してください。

0000

0000

0000

0000

0000

0000

0000

0000

Google フォーム

| 人間関係専攻学修到達度確認表 | | | | | |
|--|------------|---|--|--|--|
| 教育目標 | 学修指針 | レベル4 (秀) | レベル3 (優) | レベル2 (良) | レベル1 (可) |
| 人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成 | 教養力 | 人間関係に関する十分な基礎的教養を有し、さらにそれを自分で高めていくことができる。 | 人間関係に関する基礎的な知識を有し、それを高める方法を知っている。 | 自分自身の人間関係に関する基礎的な知識で、足りない部分を認識できる。 | 人間関係について、自分の知っていることを述べることができる。 |
| | 人間性 | 自立した人間としての思考力を有し、自分自身を理解し自己の価値観・世界観を確立している。 | 自立した思考の必要性を理解し、自分自身の価値観を構築しようと努力している。 | 自分自身について客観的に見つめることができるようになる。 | 自分らしさとは何かを考えるようになる。 |
| 他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的に係わりようとする自立した思考力の養成 | コミュニケーション力 | 他人に共感し理解できる力を有する。また多様な価値観に応じて柔軟に自分自身を主張・発信することができる。 | 他者の存在を公平に認識し、それに対して理解し共感しながら自分の意見を発信できる。 | 他者の存在を公平に認識し、それに対して理解し共感することができる。 | 他者の存在を認めることができ、それぞれの価値観があることを理解している。 |
| | 社会性 | 積極的に多様な集団や社会と係わりことができ、自己の役割を考え貢献できるよう努力し達成する力がある。 | グループワークなど集団作業において目標を自覚し、自分の役割を考え達成できるよう努力できる。 | チームワークを理解し、その一員として積極的に係わりようとする意欲があり、実行できる。 | 集団活動のメンバーとして何が求められているか、必要な要素を知ることができる。 |
| 人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成 | 専門力 | 専攻するテーマを中心に、人間関係に関する専門的な知識を有し、それを高める方法を知っている。 | 専攻するテーマについて、多角的に情報を整理した上で根拠を示しつつ考察することができる。 | 専攻するテーマについて、多角的に情報を整理することができる。 | 専攻するテーマについて、情報を集めることができる。 |
| | 判断力 | 人間や社会に関して直面する諸問題について課題を発見し、自分なりの解決策を見つけることができる。 | 人間や社会に存在する多様な問題について自己の視点から分析し、自分の言葉で論じることができる。 | 人間や社会におけるさまざまな問題を自己の関心に即して具体的に挙げることができる。 | 人間や社会に関するさまざまな問題があることを理解する力がある。 |
| 社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成 | 技術力 | 社会と文化に関して学んだ知識・技術を自分の生活に取り込む適応力があり、さらにそれを高めることができる。 | 社会と文化に関して学んだ知識や技術を自己の生活に活かそうと努力できる。 | 社会と文化に関しての知識や技術と、自分の生活との関連性を認識できる。 | 社会と文化に関しての知識や技術を自分のものにしていく。 |
| | 実践力 | 生活する中で起きる多様な問題に積極的に取り組む行動力と、解決できる実行力を有する。 | 生活する中で起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力と解決できる実行力がある。 | 生活する中で起きる多様な問題に自分なりに取り組む行動力がある。 | 生活する中で起きる多様な問題に自分なりに取り組もうと努力する。 |

2023年3月11日

教育研究推進センター

2022年度人間文化学類 英語コミュニケーション専攻
学修到達度の評価結果について(報告)

表題の件につきまして、人間文化学類 英語コミュニケーション専攻のディプロマ・ポリシーにもとづき、学生の学修到達度について自己評価表を用いて評価を行いましたので、その結果について概略を報告いたします。

1 対象学生：人間文化学類 英語コミュニケーション専攻4年

2 実施時期：2023年2月7日から2023年2月23日

3 評価方法：学生のポートフォリオの一環として作成された「学修到達度自己評価表」と「人間文化学類 英語コミュニケーション専攻(添付資料)のデータファイル」を、4年生に対して各専門ゼミの Classroom に掲出、または Active メールで配布し、各ゼミ担当者より、学修到達度について説明したうえで、現在の自分の到達度について Google Forms を使って結果を収集した。

4 結果と考察

4.1 概観

在籍者78名のうち、今年度卒業予定者である64名を調査対象とし、そのうち45名から回答を得た(回答率70.3%)。レベル別占有率は以下の表のとおりである。黄色は最も高い数値を表している。

| 質問項目 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|---|------|------|------|------|
| Q1 (教養力) 世界の言語(英語)・社会・文化等に関する基本的な知識はどれくらいありますか？ | 4.4 | 35.6 | 57.8 | 2.2 |
| Q2 (人間性) 多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？ | 0.0 | 13.3 | 46.7 | 40.0 |
| Q3 (コミュニケーション力) 社会人にふさわしい教養・語学力・表現力をどれくらい持っていますか？ | 6.7 | 22.2 | 66.7 | 4.4 |
| Q4 (社会性) 社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか？ | 4.4 | 13.3 | 60.0 | 22.2 |
| Q5 (専門力) 世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい持っていますか？ | 4.4 | 26.7 | 57.8 | 4.4 |
| Q6 (判断力) 様々な問題について分析し、判断することはどれくらいできますか？ | 4.4 | 22.2 | 62.2 | 11.1 |
| Q7 (技術力) 世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい応用できますか？ | 8.9 | 42.2 | 46.7 | 2.2 |
| Q8 (実践力) 学んだ専門的な知識をどれくらい社会に還元することができますか？ | 2.2 | 40.0 | 46.7 | 11.1 |

単位：%

4年間の教育の最終地点にあたる時期であるため、概ねレベル3の自己評価となった。2年終了時と比べても、大きな変化が見られる。

英語コミュニケーション専攻では、必修科目である「English Workshop I・II」では実践的英語力の育成を目指した取り組みをしている。同じく必修科目である「キャリア・インガ

リッシュ I・II」の授業では、TOEIC®テストに対応できる英語力を身につけるための授業を行なっている。さらに必修英語では e-learning などの学習機会を提供することを通して実践的英語力の育成に力を入れて指導をしている。これらの学修成果を測るために、2年次の4月と12月には2回 TOEIC® Listening & Reading IP テストを実施している。これらの必修科目のほか、多様性に富んだ専門科目での学びから、大学4年間で各項目の力をつけ、卒業していく学生は多い。

以下、質問項目別に2年終了時の結果と比較しながら考察する。

4.2 Q1（教養力）世界の言語(英語)・社会・文化等に関する基本的な知識はどれくらいありますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 6.6 | 67.2 | 23.0 | 3.3 |
| 4年次 | 4.4 | 35.6 | 57.8 | 2.2 |

この項目については、2年終了時ではレベル2が最も高い数値を示しているが、4年終了時にはレベル3が最も高い数値を示している。さらに、レベル3とレベル4の合計が、2年終了時が26.3%だったのに対して、4年次には60.0%となっている。2倍以上伸びたこととなる。「異文化理解」などの授業での学びを通じて、教養力を身につけることができたものと考えられる。

4.3 Q2（人間性）多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 0.0 | 14.8 | 50.8 | 34.4 |
| 4年次 | 0.0 | 13.3 | 46.7 | 40.0 |

この項目については、レベル3とレベル4の合計が、2年終了時でも85.2%と非常に高かったが、4年次には86.7%に達している。在籍学生の9割近くの学生が、大学での学びの中で、多様な価値観を受け入れることができるようになったものと推察する。

4.4 Q3 (コミュニケーション力) 社会人にふさわしい教養・語学力・表現力をどれくらい持っていますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 4.9 | 44.3 | 44.3 | 6.6 |
| 4年次 | 6.7 | 22.2 | 66.7 | 4.4 |

この項目については、2年終了時にもっとも高かったのはレベル2とレベル3であった。ところが、4年次には最も高いレベルは3へと変化した。レベル3以上は71.1%である。語学力については、専攻での学びを考えると最も身につけて欲しい分野であるが、専門だけに自己評価が厳しめであったのではないかと推察する。Q9以降の検定試験等の結果を見る限り、力をつけた学生も多く見られる。

4.5 Q4 (社会性) 社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っていますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 4.9 | 16.4 | 63.9 | 14.8 |
| 4年次 | 4.4 | 13.3 | 60.0 | 22.2 |

この項目で気になる点は、4年次には本来数が増えるはずのレベル3の数値が2年終了時より低くなっていることである。ただし、レベル3とレベル4を合計すると82.2%となり、2年次の78.7%に比べると僅かではあるが、伸びが見られる。多くの学生が必要な社会性を身につけることができたのではないかと推察する。

4.6 Q5 (専門力) 世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい持っていますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 9.8 | 67.2 | 21.3 | 1.6 |
| 4年次 | 4.4 | 26.7 | 57.8 | 4.4 |

この項目については、2年終了時のレベル3以上の数値は、21.3%と非常に低いものであった。Q3同様、専攻の専門性に関わる分野では、自己評価が低くなりがちなのではないかと考えられる。しかし、4年次にはレベル3以上は57.8%までには伸びており、レベル4と合計すると、6割以上の学生は、この4年間である程度のレベルを達成できたものと考え

る。

4.7 Q6（判断力）様々な問題について分析し、判断することはどれくらいできますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 0.0 | 39.3 | 57.4 | 3.3 |
| 4年次 | 4.4 | 22.2 | 62.2 | 11.1 |

この項目については、2年終了時には、レベル3以上の学生は60.7%であったが、4年次は73.3%に達している。3・4年生の専門ゼミでは、研究を重ね、分析し、判断する機会も多かった。また、就職活動などで、様々な問題について考える場面も多かったことなどから、この分野の力を伸ばしたものと考えられる。

4.8 Q7（技術力）世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識をどれくらい応用できますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 8.2 | 67.2 | 23.0 | 1.6 |
| 4年次 | 8.9 | 42.2 | 46.7 | 2.2 |

この項目については、4年次のレベル3以上でも48.9%と高い数値ではない。Q3、Q5同様、専門性に関わる分野であるため、自己評価が低めになったのではないかと推察する。それでも、2年終了時にはレベル2に大きな山があり、レベル3以上はわずか24.6%であったことを考えると、4年終了時には約2倍に伸びている。専攻で学ぶべきことをきちんと学んだ学生も相当数いることがわかる。

4.9 Q8（実践力）学んだ専門的知識をどれくらい社会に還元することができますか？

| 実施時期 | レベル1 | レベル2 | レベル3 | レベル4 |
|-------|------|------|------|------|
| 2年終了時 | 6.6 | 45.9 | 42.6 | 4.9 |
| 4年次 | 2.2 | 40.0 | 46.7 | 11.1 |

卒業して実際に社会に出てみなければ、学んだことをどれくらい還元できるかは判断しづらいのであろう。ただし、2年終了時には大きな山はレベル2にあったが、4年次にはレベル3に移行している。レベル3以上の割合は57.8%であることから、6割近くの学生が、ある程度の実践力を身につけることができたものとする。

4.10 Q9 TOEIC® (IP を含む) の、最高得点は何点ですか？総合点で回答してください。

最高得点は 810 点で、800 点台が 2 名、700 点台が 4 名、600 点台が 5 名であった。以前に比べて、受験しようという意識も高く、地道に学習とする学生が増えている。

4.11 Q10 実用英語技能検定 (英検) は何級ですか？

これは、大学入学後に取得した級を回答させた。英検準 2 級が 14 名、2 級が 17 名という結果になった。Q9 同様、高い意識を持って取り組んだ学生がいたことがわかる数値である。

4.12 その他 (TOEFL, IELTS, 秘書検定等) を受験した場合は、資格試験名と得点や取得級を記述してください。

この問いについては自由記述とした。その結果、秘書検定 2 級が 8 名、秘書検定 3 級が 1 名、世界遺産検定 3 級が 1 名、MOS 検定取得者が 2 名、アンティーク検定 3 級が 1 名、中国語検定 HSK 3 級が 1 名、同検定の級不明が 1 名、FP 3 級が 1 名いた。昨年度の 4 年生に比べて、取得検定の種類が増えており、多方面に興味を持つ学生が多いことがわかる。

以上

文責：人間文化学類 英語コミュニケーション専攻
中野達也

2023年3月22日

教育研究推進センター

観光文化学類長
張 景泰

2022年度観光文化学類4年生学修到達度の評価結果について（報告）

人間総合学群、観光文化学類のカリキュラム・ポリシーに基づき、観光文化学類の4年次の学修到達度について自己評価表を用いて評価を行った。併せて検定試験・資格試験の受験状況についての調査も行ったので、それについてもその概略を報告する。

- ・対象：人間総合学群、観光文化学類4年
- ・実施時期：2022年12月～2023年1月
- ・評価方法：（4年次）2022年度、観光文化学類「学修到達度自己評価&資格試験・外部試験受験状況」調査（添付資料）に基づき Google Form を作成し、各専門ゼミで学修到達度について説明したうえで、現在の到達度について自己評価させ、併せて検定試験・資格試験の受験状況を報告させた。
- ・結果：在籍者89名(退学予定者、留年予定者も含む)中88名より回答を得た。(回答率98.9%)

1. 学修到達度自己評価

学修到達度確認表(履修ガイド2018 p. 7)の文言を学生が自己評価しやすいように以下の表現にして、4年終了時の到達目標であるレベル4に、3(到達している)、2(ある程度到達している)、1(まだ到達していない)の3段階評価とした。

| 項目 | 平均 | 前回平均 |
|--|------|------|
| 1a 教養力：観光・文化に関する広汎な知識を体系化し、高度な企画を立案・実践できる | 2.37 | 1.88 |
| 1b 人間性：多様な価値観を受け入れ、ホスピタリティ精神を創造的に実現することができる | 2.67 | 2.38 |
| 2a コミュニケーション力：社会全般の話題について相手の立場を理解し、自分の考えを正確に表現しながら議論することができる | 2.37 | 2.13 |
| 2b 社会性：自分の社会的使命と責任を自覚し、社会的活動をやりとげることができる | 2.35 | 1.95 |
| 3a 専門力：観光・文化に関する情報を収集・整理し、知識を体系化して活用することができる | 2.29 | 1.92 |
| 3b 判断力：収集・整理した情報を批判的に分析し、独自の主張を論理的に展開することができる | 2.18 | 1.79 |
| 4a 技術力：研究を論理的で説得力のあるレポートにまとめ、プレゼンテーション・質疑応答することができる | 2.20 | 1.68 |
| 4b 実践力：観光・文化に関する問題を自ら発見し、主体的・計画的な取り組みを通して解決策を導くことができる | 2.17 | 1.68 |

(表 1)

全ての項目の平均値が 2 を上回っており、特に人間性 2.67、コミュニケーション力 2.37、教養力 2.37 が高評価であった。表 1 右端の数値は前回 (3 年次初期) 平均で、同じ学生達に対して 2022 年 6 月に実施したレベル 2 の到達度調査結果である。3 段階評価で 2 に達していない項目が 6 つあったが、その後著しく成長したことが分かる。すべての項目で改善がみられる。

各項目の回答人数の内訳は以下のとおりである。

| 項目 | 3(到達している) | 2(ある程度到達している) | 1(まだ到達していない) |
|---------------|-----------|---------------|--------------|
| 1a 教養力 | 35 | 51 | 2 |
| 1b 人間性 | 59 | 29 | 0 |
| 2a コミュニケーション力 | 38 | 46 | 4 |
| 2b 社会性 | 35 | 49 | 4 |
| 3a 専門力 | 30 | 54 | 4 |
| 3b 判断力 | 22 | 59 | 8 |
| 4a 技術力 | 28 | 50 | 10 |
| 4b 実践力 | 25 | 53 | 10 |

(表 2)

人間性は評点 3 が 59 名と、最も多く、全体の 3 分の 2 以上である。さらに評点 1 が 1 名もいない唯一の項目である。他の項目は評点 2 が最も多いが、コミュニケーション力は評点 3 が 38 名、評点 2 が 46 名であり、教養力も評点 3 が 35 名、評点 2 が 51 名である。その他の項目も、評点 3 は社会性 35 名、専門力 30 名、技術力 28 名と、全体の 3 分の 1 になっている。評点 3 が最も少ないのは実践力 25 名、判断力の 22 名である。

比較のために前回 (1 年前、同じ対象) の結果を以下に示す。回答総数は 85 で、今回より 3 名少ない。

| 項目 | 3(到達している) | 2(ある程度到達している) | 1(まだ到達していない) |
|---------------|-----------|---------------|--------------|
| 1a 教養力 | 10 | 55 | 20 |
| 1b 人間性 | 33 | 51 | 1 |
| 2a コミュニケーション力 | 20 | 56 | 9 |
| 2b 社会性 | 14 | 53 | 18 |
| 3a 専門力 | 10 | 58 | 17 |
| 3b 判断力 | 5 | 57 | 23 |
| 4a 技術力 | 5 | 48 | 32 |
| 4b 実践力 | 5 | 48 | 32 |

(表 3)

今回は全ての項目で評点 2 が最も多く、評点 1 も今回に比べてかなり多かった。

今回、個々の学生の自己評価では、8 項目全て評点 3 が 8 名、5~7 項目 3 点が 12 名で、計 20 名が 3 点中心の評価をしている。全項目評点 2 は 8 名、5~7 項目 2 点が 17 名で、計 25 名が 2 点中心の自己評価をしている。評点 1 のある学生は 16 名いるが、半数が 1 項目のみで、最も自己評価が低かった学生は、5 項目が 1 点、3 項目が 2 点であった。

2.4 年間の取り組みと学びについての自由記述

1) 専門ゼミでの 2 年間の学びについて

専門ゼミの学びを通じて学習能力が高くなったという記述が最も多く見られる。その中でも最も多かったのが、ゼミ合同発表会に向けた「ツアープランの作成」や「研究活動報告」に関するものであった。インターネットの活用方法や文献から情報収集をする能力、自分の意見を積極的に発言する能力、異なる意見に耳を傾けるコミュニケーション能力、発表のテーマを決め、分析をして研究する分析能力などが上がったという記述が見られる。ツアープランに関する情報などを収集し、体系的に活用する専門性を伸ばし、ゼミ生同士で練習して発表することで、大きな達成感を得て、人間性・コミュニケーション力・専門力・判断力・技術力・実践力の成長につながったと考えられる。

また、ゼミ論の作成を通じ、情報収集能力、研究した情報をまとめる能力、プレゼンテーション力が高くなったという記述もみられた。

さらにゼミの輪読発表で、要点をまとめる力が身についたという記述も多かった。

2) 「観光」や「ホスピタリティ精神」に関する学びについて

4 年間を通じて、日本の観光についてさらに理解してその興味が深まったという記述が複数あった。観光の仕組み、関連歴史や文化を知り、観光産業への興味が深まり、関連ニュースを見る目も変わったという記述から「情報の分析」や「情報収集での成長」が伺える。

また、ホスピタリティに対する考え方やお客様への対応の仕方が 4 年間の学びによって大きく変化し、「常にお客様の立場になって考え、行動できるようになった」という記述や「異文化理解や多様性の知識、さまざまな意見に耳を傾けることの大切さや気づく力が身に付いた」など、人間として成長した様子が伺え、ホスピタリティ精神や観光文化に対する知識はもちろん、長時間を要するおもてなしの行動も身に付けることができたと考えられる。

さらに大学 4 年間で観光だけではなく、「日本以外の国」の知識や「宗教、言語など」の文化を学ぶことができよかったという記述もあり、幅広い教養力もある程度身に付いたことを伺える。

3) その他

インターンシップや学外研修、アルバイトについての言及やその他の記述の一部を以下

に抜粋する。

観光文化学類が力を入れている実習系の科目については、「国内旅行研修」や「国内インターンシップ」がハイブリッド型で行われ、コロナ禍でも貴重な経験をしたことについてコメントしている。しかし、「海外旅行研修」や「海外インターンシップ」が実施されず、参加を期待した学生が多かったため、落胆した学生達の気持ちがわかる。人間性・コミュニケーション力・社会性・実践力などは海外の実習科目がさらに実施されれば、更に能力が伸びた可能性があると考えられる。

アンケートに対する学生記述の仕方が様々で、文字数の制限はなかったため、500字に近い長文から、簡単に一言で済ませているものまで大きな差があり、今後のアンケート実施に際しては、工夫が必要である。

3.4 年間の学びを振り替えての自由記述（教員や後輩に言いたいこと）

ここでは、教員に対する「感謝の気持ち」や自分の「失敗や経験を後輩へ話す内容」がメインであったが、コロナ関連のコメントが多く記入されていた。

- 1) 2年間のコロナ禍の影響について、記述一部を以下に抜粋する。

コロナウィルスというマイナス面だけを見るのではなく、オンライン授業による時間節約や授業内容がさらに深められたというプラス面の指摘もあり、プラス思考でコロナを乗り越えようとする学生の記述が印象に残る。

4. 資格試験・外部試験の受験状況

各試験の受験者数、合格者数、詳細内容は以下のとおりである。

| 検定の種類 | 受験の数(名) | 合格(名) | 詳細内容 |
|------------|---------|-------|---|
| 世界遺産検定 | 47 | 36 | 2級14名、3級22名合格 |
| 実用英語技能検定 | 21 | 16 | 2級5名、準2級8名、3級3名合格 |
| 観光英語検定 | 7 | 5 | 2級2名、3級3名合格 |
| TOEIC | 19 | - | 800点以上1名、600点以上5名、 500点以上2名、400点以上2名 |
| フランス語検定 | 2 | 0 | - |
| 日本語検定 | 3 | 3 | 準2級2人、3級1人 |
| 日本語能力検定 | 2 | 2 | 2級1人、3級1人 |
| 韓国語検定 | 3 | 3 | 2級1人、4級2人 |
| 中国語検定 | 1 | 1 | 2級1人 |
| 漢字検定 | 12 | 5 | 2級1名、準2級3名、3級1名合格 |
| サービス接遇検定 | 1 | 1 | 2級1人 |
| アンティーク検定 | 18 | 11 | 3級11名合格 |
| 国内旅行業取扱管理者 | 16 | 3 | 3名合格 |
| 総合旅行業取扱管理者 | 1 | 0 | - |
| ニュース時事能力検定 | 1 | 1 | 3級1人 |
| ビジネス文書検定 | 2 | 1 | 2級1人 |
| 秘書検定 | 30 | 18 | 2級17名、3級1名合格 |
| 日本化粧品検定 | 4 | 4 | 3級4名合格 |
| 証券外務員資格 | 1 | 1 | 二種 |
| 受験なし | 14 | - | - |

(表4)

最も受験者数の多かったのは世界遺産検定で、47名が受験しており、2級が14名、3級が22名の合格者を出している。合格率も7割を超えており、比較的取りやすい資格試験として人気がある。それに対し、試験対策科目を設けている国家試験「旅行業取扱管理者」の合格率は最も低い。「国内旅行業取扱管理者」では、16名が受験し、3名の合格者

が出したが、「総合旅行業取扱管理者」では、受験も1人のみで、不合格になっている。在学中に合格者を出させるためには、少人数の試験対策をさらに強化する必要がある。また、「国内旅行業取扱管理者」に対する受験者数を増やし、1度不合格でも翌年の再受験を促すことも必要である。「国内旅行業取扱管理者」の合格者に対してそこで満足せず、さらなる上を目指して「総合旅行業取扱管理者」にも挑戦できるように3年生を中心に取組んで、在学中に合格率を上げることが課題である。

英語関連の試験では、「実用英語技能検定」では、21名が受験し、「TOEIC」では19名が受験したことに対し、「観光英語検定」では、7名の受験者しかいなく、相対的に少ない。今後「観光英語検定」の受験者をもっと増やす努力が必要である。

英語以外の語学検定では、1～3名の受験者しか居ないが、韓国語が昨年度より若干増えている（3名）。それに対し、スペイン語の受験者が一人もいない。常勤教員（スペイン語担当）の引退による影響が伺える。

また、観光関連以外の資格でも、「秘書検定」、「アンティーク検定」、「日本化粧品検定」などにも合格者をそれぞれ、18名、11名、4名を出しており、これらの試験に対して興味を持っている本学類の学生も多くおり、学習支援センターの指導が良い結果に結びついたと考えられる。

さらに上記に言及していない検定で、受験者が1～2名の検定試験は以下の通りであった。

フランス語検定不合格 2、中国語検定合格 1、サービス接遇検定 合格 1、ニュース時事能力検定 合格 1、ビジネス文書検定 2級合格 1・不合格 1、証券外務員資格 合格 1。

最後に複数（二つ以上）の試験に合格した学生は、40人に達しており、高い意識をもって取り組んでいる学生が多い反面、4年間で何も受けていない学生が14名もいた。（2021年度は11名だったのが、減少せず3名増える結果になった。）これは全学生の2割に近い割合で、何か1つでも資格取得を目指すように、早い段階から指導する必要がある。

5. まとめ

観光文化学類の第2期生は定員を120%超える順調なスタートだった。1年次は従来の大学生活を送り、対面授業を受けたが、コロナパンデミック発生により、2・3年次では多くの授業をオンライン形態授業として実施せざるを得ない状況だった。予定されていた「都内宿泊研修」や「インターンシップ」、「旅行研修」すべてが実施を延期することになった。専門ゼミも3年次では、オンラインでの実施を余儀なくされた。

厳しい環境の中でも研修科目の中、「国内インターンシップ」・「国内旅行研修」は、関係者の努力で現場での実施が可能となり、「都内宿泊研修」に関しては宿泊を叶えることが出来なかったが、3年次に「日帰り研修」として実施することができた。しかし、海外で行う「海外インターンシップ」・「海外旅行研修」に関しては第2期生を対象に行うことが出来

ず、心残りである。

今年度はゼミを含め、多くの授業を対面で進め、順調にウィズコロナ体制で行うこととなった。ゼミ合同発表会では、4年次全員協力して講堂で行われ、学びの集大成になった。

3年次の調査と比べ、4年次の学修レベル到達度は大きく上がった。特に「人間性」の伸び、学生自身が自覚をしていることからその成果は明らかである。また「コミュニケーション力」「社会性」「専門力」「実践力」「判断力」を高めることができ、それぞれの目標に達したことを示していると考えられる。

観光文化学類では、2年次終了時（3年次の専門ゼミ時に調査）と4年次終了時の2回、学修到達度自己評価のアンケートを行い、集計して報告書を作成することは2年目であるが、前年度同様に2回の調査を行い、それぞれを比較することで、該当年次の成長が目に見える形になった。

以上

2023年3月31日

教育研究支援課

心理学類長 丸山 慎

心理学類 2022年度4年終了時の学修到達度の評価結果について（報告）

題記の件につきまして、人間総合学群心理学類のカリキュラム・ポリシーにもとづき、学生の学修到達度について自己評価表を用いて評価を行いましたので、その結果について報告いたします。

対象学生：人間総合学群心理学類4年

実施時期：2022年12月～2023年1月

評価方法：学生のポートフォリオの一環として作成された「学修到達度自己評価表」と「心理学類ディプロマ・ポリシー（添付資料）」を、4年の心理学ゼミのGSEクラスルームにてオンライン上で配布、もしくは対面授業時にプリント版を配布して、学修到達度について説明したうえで、現在の自分の到達度について「学修到達度自己評価表」に入力、もしくは記入してもらった。

結果：在籍者86名のうち、59名から回答を得た（回答率69%）。

平均点（範囲1～4）、および最小値・最大値は以下の表のとおり

| 質問項目 | 平均 | 最小 | 最大 |
|---|------|----|----|
| 教養力：人の心に関する教養的知識を、どのくらい増やせましたか？ | 3.24 | 2 | 4 |
| 人間性：他者に対する共感的な理解力（洞察力）を、どのくらい伸ばせましたか？ | 3.34 | 2 | 4 |
| コミュニケーション力：コミュニケーションの力を、どのくらい伸ばせましたか？ | 2.93 | 1 | 4 |
| 社会性：他者と共同作業するための社会性を、どのくらい身につけることができましたか？ | 3.17 | 1 | 4 |
| 専門力：専門的な知識を活用する力を、どのくらい伸ばせましたか？ | 3.00 | 2 | 4 |
| 判断力：根拠に基づいて論理的に思考する力を、どのくらい伸ばせましたか？ | 2.93 | 2 | 4 |
| 技術力：心理学の知識を生活の中で活用する力を、どのくらい伸ばせましたか？ | 3.12 | 2 | 4 |
| 実践力：心理学の知識を使って社会に貢献する実践力を、どのくらい伸ばせましたか？ | 2.78 | 2 | 4 |

4年間の教育の到達点にあたる時期ということもあり、いずれの項目も平均値が概ね「3」前後の自己評価となった。2022年6月に実施した同一学生群対象の1回目の評価結果の平均値が1点台後半（1.75）から2点台前半（2.29）の範囲に留まり、3点台に届いた項目が無かったことと比較すると大幅な上昇傾向を読み取ることができる（ただし1回目の回答数は24だったため、あくまで平均値の推移のみからみた限定的な結果であることは申し添えておく）。本学年の学生は、入学時は通常通りの学生生活を過ごした後にコロナ禍での完全遠隔授業を経て、再び対面授業に戻るといった劇的な変化を経験した。このことも影響しているのかもしれないが、「他者に対する共感的な理解力（洞察力）」において「3.24」という

高い平均値を記録したことは示唆的である。未曾有の困難に直面するなかで他者への共感性を高めることができたという自己評価は、心理学類における学修の成果としてきわめて重要なポイントとして指摘することができるだろう。

以上

2022年度 住空間デザイン学類「4年修了時 学修到達度の確認」実施報告

2022年度住空間デザイン学類「4年修了時 学修到達度の確認」について、以下の通り報告します。

1) 学習到達度確認の目的

- ・2年修了時に、住空間デザイン学類のカリキュラム・マップに記載の基礎レベル（到達度 lv1、lv2）が習得できているかを確認することを目的とします。
- ・4年修了時に、住空間デザイン学類のカリキュラム・マップに記載の卒業に相応しい学習成果（到達度 lv3、lv4）を得られたかを確認することを目的とします。

2) 実施方法

学修到達度の確認は、「学修到達度確認表（※資料1）」を利用して行い、対象学生の自己診断を基としました。住空間デザイン学類8つの学修指針「教養力」「人間性」「コミュニケーション力」「社会性」「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」の下に記載された「学修到達度」を「レベル4～レベル1」の4段階評価で回答してもらいました。また「自己評価コメント」を自由記述で回答してもらいました。

3) 実施時期、対象学生および回答数

- ・実施時期：2023年1月～2月
- ・対象学生：2019年度入学 住空間デザイン学類 所属学生（現4年生）74名
- ・回答数：66名（回答率：89.2%）

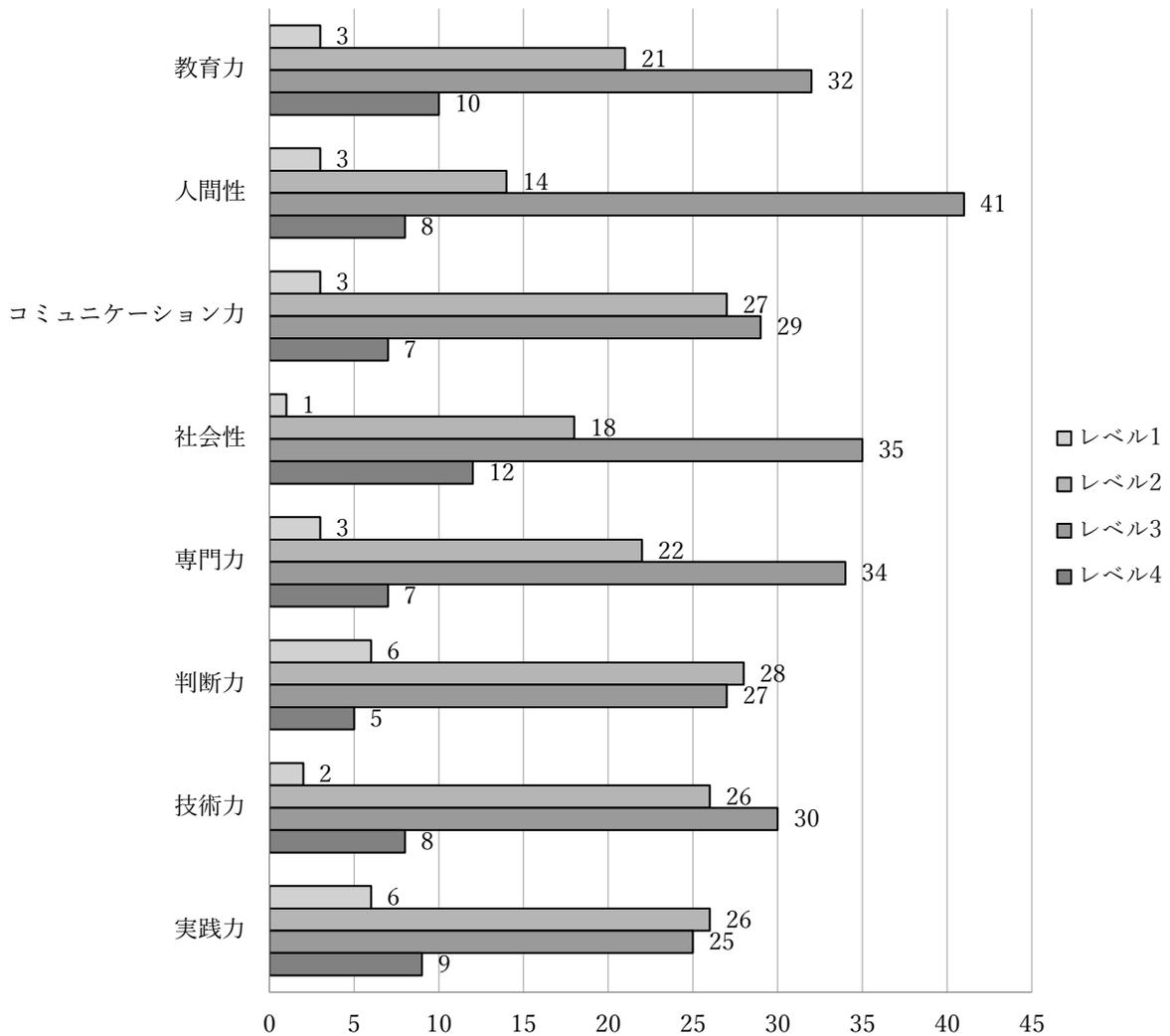
4) 集計結果

「4年修了時 学修到達度の確認」【資料1】に記載された自己診断を集計した結果は、表1と図1の通りです。また「自己評価コメント」の回答内容を【資料2】に記載しました。

■表1 4年修了時 学修到達度の確認 自己診断集計（上段：人、下段：%）

| | 教養力 | 人間性 | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| レベル1 | 3 (4.5) | 3 (4.5) | 3 (4.5) | 1 (1.5) | 3 (4.5) | 6 (9.0) | 2 (3.0) | 6 (9.0) |
| レベル2 | 21 (31.8) | 14 (21.2) | 27 (40.9) | 18 (27.3) | 22 (33.3) | 28 (42.4) | 26 (39.4) | 26 (39.4) |
| レベル3 | 32 (48.5) | 41 (62.1) | 29 (43.9) | 35 (53.0) | 34 (51.5) | 27 (40.9) | 30 (45.5) | 25 (37.9) |
| レベル4 | 10 (15.1) | 8 (12.1) | 7 (10.6) | 12 (18.1) | 7 (10.6) | 5 (7.5) | 8 (12.1) | 9 (13.6) |
| 平均 | 2.74 | 2.82 | 2.61 | 2.88 | 2.68 | 2.47 | 2.67 | 2.56 |

2022年度 住空間デザイン学類 4年修了時 学修到達度の確認



■図1 2022年度 4年修了時 学修到達度の確認 学修指針別 自己診断結果

5) 検証結果

学修到達度の評価結果は、全ての学修指針の項目においてレベル平均値が 2.47～2.88 の範囲となり、前年度より若干上回りました。また7つの項目において、本確認の目的である、4年修了時においてカリキュラム・マップに記載の卒業に相応しい学習成果のレベル3または4に到達している学生が半数を超え、学類ディプロマポリシー（DP）の目標に概ね到達していることを確認しました。特に「**教養力**」は63.6%、「**人間性**」は74.2%、「**社会性**」は71.2%の学生がレベル3または4に該当する自己評価を回答しました。一方で、「**判断力**」についてはレベル平均値が2.47と8項目の中で最も低く、レベル3または4を回答している学生が48.4%で、他の項目に比べて若干低くなりました。「**実践力**」はレベル平均値が2.56と2番目に低い項目でした。「**判断力**」と「**実践力**」については他の項目に比べてレベル1と2を回答する学生が多く、この2項目の到達度について学類DPの目標に到達していない学生が多いことを確認し

ました。

次に学修指針の各項目における結果を分析し、考察します。

「**教養力**」「**人間性**」は、建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等、くらしの環境に関する基礎的かつ総合的な知識と、豊かな人間性の養成を目標とする項目です。8項目の中で評価レベルの平均は「**人間性**」が2.82で2番目に高く、「**教養力**」が2.74で3番目でした。またレベル3または4を回答した割合も「**人間性**」が74.2%と最も高く、「**教養力**」が63.6%で2番目に多い結果となりました。授業で得られた様々な知識を自らの問題として総合的に考える3年次の産学連携課題などのスタジオ課題や卒業研究等などの成果が、この数年間を通して徐々に現れていると考えます。

「**コミュニケーション力**」「**社会性**」は住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と共同作業などによる社会性の養成を目標とする項目です。「**コミュニケーション力**」の評価平均は8項目中最も低い状態が数年来続いていましたが、昨年度から少しずつ改善され、今年度の評価平均は2.61、レベル3または4を回答した数は全体の54.5%となりました。「**社会性**」の評価はレベル3または4を回答した数は全体の71.2%で最も高く、8ポイント上昇した前年度からさらに7ポイント上昇しました。各実習系課題におけるプレゼンテーションの機会などにおいて、論理的で説得力のある内容を目指すことに重点を置き、引き続き指導を強化していきます。

「**専門力**」「**判断力**」は住居や都市など住空間に関する専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成が目標です。評価レベル3または4を回答した割合は「**専門力**」が62.1%で昨年度と比べて10ポイント程上昇しましたが、「**判断力**」については48.5%と昨年度比で7ポイントほど低下し、半数程度の学生が卒業に相応しいレベルに到達していないと自己評価しました。

「**技術力**」「**実践力**」は住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成を目標としています。評価レベル3または4を回答した割合は「**技術力**」が57.5%であり、「**実践力**」は51.5%で、双方ともに前年度比でやや下降しました。「**技術力**」と「**実践力**」については3年次以降の多くの科目での学修成果が自己判断に影響を与えていると思われます。

最後に「**自己評価コメント**」の回答内容【資料2】について考察します。自己の学修到達度については概ね前向きで肯定的なコメントが多くみられました。優れた学生ほど厳しく自己評価する傾向があるのは例年同様ですが、2年次に実施した到達度確認からの成長を実感できた学生も多く見受けられました。また到達度の低い自己評価をした学生も、4年間の成果を客観的に振り返ることで、不足している項目については今後努力する旨のコメントも多くみられました。

6) 今後の課題

今後の課題として、以下の3点を挙げます。

1) 「**判断力**」を高めるために、実際に街に出て実際の建物を観察・体験することや、インターンなどを通じた専門的な知識や多様な価値観を得られる機会を積極的に授業に取り入れることを検討します。また体験を通して作品等を論理的に批判し、独自の考えを生み出すよう促すことで、その修得に繋がっていきます。

2) 「**実践力**」を身に付けさせるには、授業においてより実践的に学ぶ内容や機会を設けること、また授業外でも学生がこうした機会に自ら接することで、その獲得につながると考えます。住空間デザインに関する多様な技術力を身につける機会を与え、自らすすんで課題を見つけ、計画をたてる実践的な課題等を実施することを検討します。

3) 各学生の「**2年修了時 学修到達度**」の内容を3年次以降の担当教員が把握し、各学生の自己評価が低い項目を補うなど適切な指導を行うために積極的に活用します。

(以上)

【資料1】2022年度 住空間デザイン学類「4年修了時 学修到達度の確認」確認表

住空間デザイン学類

学修到達度の確認

2022年度4年修了時

| | | | |
|------|--|----|--|
| 学籍番号 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|

| 教育目標 | 人が作り上げる社会や生活の文化に関する基礎的な知識と、人間存在に関する広範な理解の養成 | | 自らの作り上げた意匠を誰にでもわかりやすくプレゼンテーションできる言語の力と、社会の中で自分の生きる空間を生み出す力の養成 | | 住居や都市など住空間に関する専門的な知識と、的確な判断を示すことのできる思考力の養成 | | 自らの想いに形を与えていく技術力と、関係する人びとと協調性をもって作品を完成へと進めていくことのできる実践力の養成 | |
|------|--|--|---|---|---|--|---|--|
| | 学修指針 | 教養力 | 人間性 | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力 | 判断力 | 技術力 |
| レベル4 | くらしの環境に関する多角的な知識を有し、より良いくらしの環境の創造を目指すことができる。 | くらしの環境のあり方を踏まえ、より良い住空間の実現を実践することができる。 | 日本語能力に優れ、論理的で説得力のある口頭発表ができ、明晰な文章を書くことができる。 | 住まいとくらしの問題を把握し、自立した社会人にふさわしい責任感を持って共同作業に従事することができる。 | 住まいとくらしに関するテーマについて論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。 | 住まいとくらしに関する事例について論理的に批判し、その批判から新しい独自の考えを育てていくことができる。 | 住まいとくらしに関する多様な幅広い視点から課題に向き合い、実践することができる。 | 自らすすんで課題を見つけ、解決に向けた計画手順を立て、実践することができる。 |
| レベル3 | くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、自らの問題として考えることができる。 | くらしの環境のあり方について問題点を指摘し、より良い住空間を実現するために努力することができる。 | 日本語能力が高く、形式に沿った口頭発表ができ、わかりやすい文章を書くことができる。 | 住まいとくらしの問題について説明することができ、他者とスムーズに共同作業をすることができる。 | 住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理し、根拠を示しつつ考察することができる。 | 住まいとくらしに関する事例について、その反証となる実例を挙げつつ、論理的に批判することができる。 | 住空間デザインに関する多様な技術力を有し、課題に応じて実践することができる。 | 自らすすんで課題を見つけ、解決に向けた計画手順を立てることができる。 |
| レベル2 | くらしの環境に関する基礎的な知識を有し、問題点を指摘することができる。 | くらしの環境のあり方について自分なりのポリシーを持ち、自己を表現することができる。 | 日本語能力があり、自らの考えをわかりやすく説明することができる。 | 住まいとくらしの問題について一通り説明することができ、共同作業に加わることができる。 | 住まいとくらしに関するテーマについて、多角的に情報を整理し、処理することができる。 | 住まいとくらしに関する事例について、論理的に矛盾点を見出し批判することができる。 | 住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、自分なりに応用しながら実践することができる。 | 与えられた課題に対して、解決に向けた計画手順を立て、実践することができる。 |
| レベル1 | くらしの環境について、自分の知っていることを述べることができる。 | くらしの環境のあり方に沿ったルールやマナーを尊重することができる。 | 基礎的な日本語能力があり、人前で物事の簡単な説明ができる。 | 住まいとくらしの問題についてある程度説明することができる。 | 住まいとくらしに関するテーマについて、情報を集め、処理することができる。 | 住まいとくらしに関する事例について批判的に対することができる。 | 住空間デザインに関する基礎的な技術力を有し、実践することができる。 | 与えられた課題に対して、解決に向けた計画手順を立てることができる。 |
| 自己診断 | 該当レベルの数値を記 | | | | | | | |

(自己評価コメント)

(担任コメント)

人間健康学部 健康栄養学科
2022 年度 4 年次「学修到達度の確認」 実施報告書

2023 年 2 月 9 日

実施評価、報告書作成
4 年担任 大坂 裕子
佐藤 勝重

【1】実施要領

実施対象者：人間健康学部・健康栄養学科 4 年生（83 名）
実施期間：2023 年 1 月 12 日（木）～27 日（金）
実施方法：Google Workspace for Education の Form を用いた遠隔方式

【2】質問内容

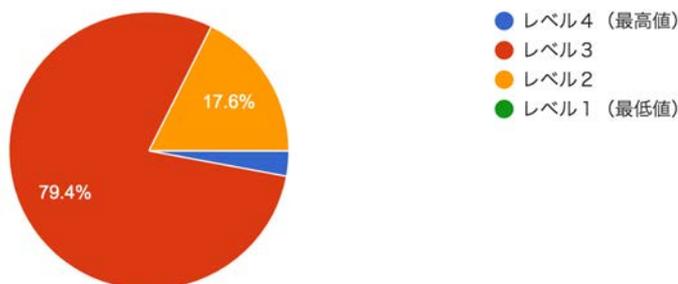
添付資料のとおり、8 つの学修指針について、それぞれの到達度を 4 段階で自己評価して回答するように求めた。

【3】集計結果

回答者数 34 名（回答率 41%）で、設問 3-10 の集計結果は以下の通りであった。（設問 1，2 は、それぞれ学籍番号、氏名についての記入。）

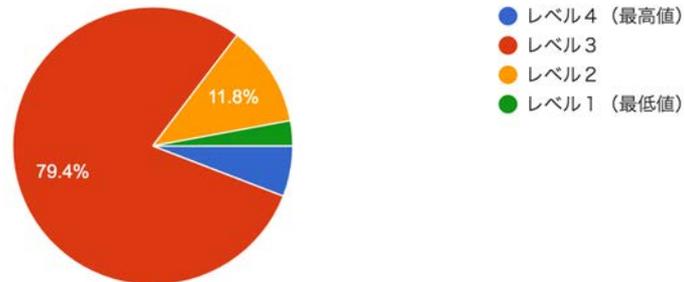
設問 3 「教養力」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.76

設問 3 「教養力」はどのくらい身につきましたか。
34 件の回答



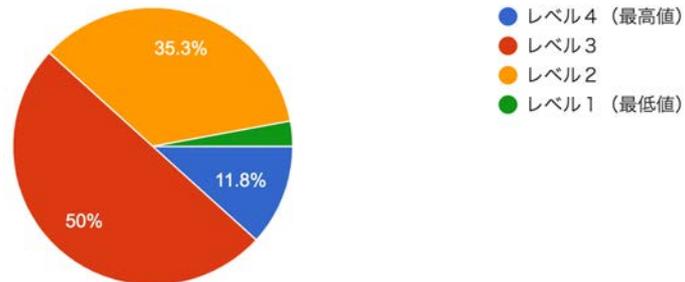
設問 4 「人間性」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.88

設問 4 「人間性」はどのくらい身につきましたか。
34 件の回答



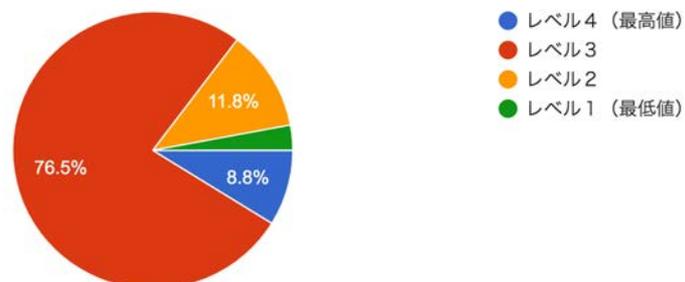
設問 5 「コミュニケーション力」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.71

設問 5 「コミュニケーション力」はどのくらい身につきましたか。
34 件の回答



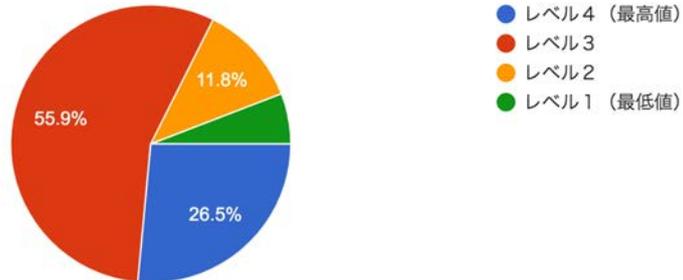
設問 6 「社会性」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.91

設問 6 「社会性」はどのくらい身につきましたか。
34 件の回答



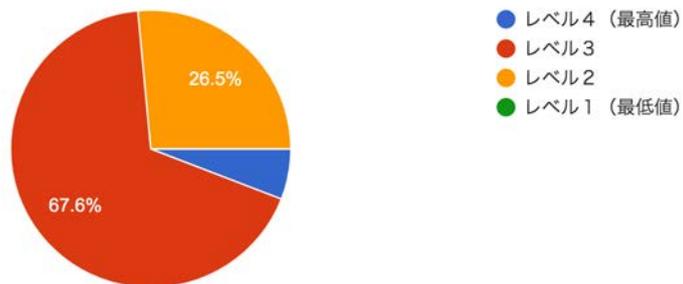
設問7 「専門力」はどのくらい身につきましたか。 平均：3.15

設問7 「専門力」はどのくらい身につきましたか。
34件の回答



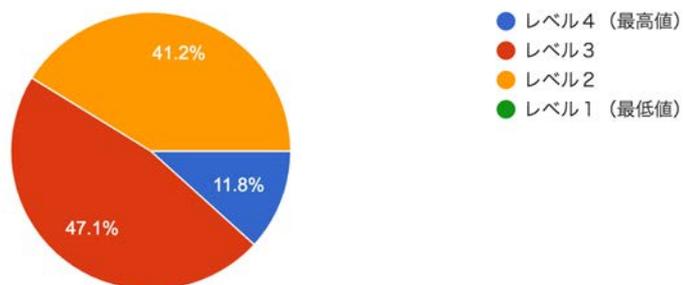
設問8 「判断力」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.79

設問8 「判断力」はどのくらい身につきましたか。
34件の回答



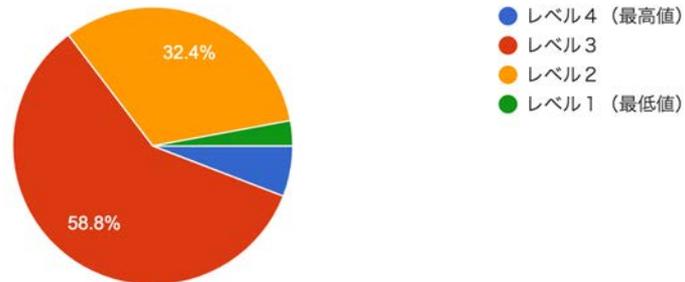
設問9 「技術力」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.71

設問9 「技術力」はどのくらい身につきましたか。
34件の回答



設問 10 「実践力」はどのくらい身につきましたか。 平均：2.68

設問10 「実践力」はどのくらい身につきましたか。
34 件の回答



設問 11 「自己評価コメント」をお願いします。大学4年間の学修成果の自己評価に関することなら何でも結構です。短くても長くても構いませんので、必ず記入をお願いします。

【4】検証結果

学修到達度の自己評価に関する「設問 3-10」について、学修到達度の平均値は2.68～3.15と各設問ともレベル1から4の平均値である2.50を越えていた。この結果から、多くの学生は学習成果が達成されていると考えられた。設問項目別に平均値をみると、「専門力」が3.15、「判断力」が2.79、「技術力」が2.71、「実践力」が2.68であった。国家資格であり専門性の高い管理栄養士として必要な能力を、駒沢女子大学在学の4年間で習得できたと多くの学生が認識していると結論できた。また、「教養力」が2.76、「人間性」が2.88、「コミュニケーション力」が2.71、「社会性」が2.91と、管理栄養士に必要な専門性だけではなく、混沌とした社会の中で正しく、意義深く、協調性を持って生きていく力を十分に身につけることができた、と多くの学生が感じていると考えられた。

「設問 11」の自由記述欄をみると、「管理栄養士の専門的な知識を学ぶことと、社会性を十分に学ぶことができた。」「管理栄養士の役割について理解を深め、どのように活躍していくべきか自分の考えを持つことができました。」というように記述が多くあり、在学中に管理栄養士に必要な知識だけでなく、自分を見つめ直し、人間性を高めてきたことがうかがえた。しかしその一方で、「コロナで実験等がほとんどなかったのですが、そのほかはよく学べたと思います。」や、「コロナ禍が大学生活の半分以上を占めてしまい当初思い描いていた大学生活通りとはいきませんでしたがある程度のは出来たと感じています。」といった意見も多数あり、コロナウィルス蔓延による遠隔授業のため、学生生活に対する不完全燃焼感が強く感じられた。

【5】今後の課題

まず、今回の「学修到達度の確認」に対する回答率は41%と半数以下であり、実施側としては周知を十分に行ったと考えていたが、結果的にはまったく不十分なものであった。この点は大きく反省すべき点であり、次年度以降はさらに徹底して実施の周知を行う必要がある。

回答率は高くなかったが、今回の結果では各項目に対して多くの学生が学修到達度をレベル3と自己判断しており、在学4年間での学修成果は比較的高かったことが示唆された。しかしながら、この結果はまだ十分なものではなく、学生の学習意欲を高めるような教育方法の工夫、改善が必要であると考えられた。例えば前述したように、多くの学生は「遠隔授業での不完全燃焼感」を感じた様であったが、今後も講義では Google Workspace for Education の併用が行われる予定であり、その利点を生かした運用方法を改めて考える必要があると考えられた。

「管理栄養士」に必要な知識、実践力は卒業後も常に更新しなくてはならず、それに向かうためのモチベーションをいかに保つかは非常に重要である。今回の結果から、知識の詰め込みだけでなく、自ら実践して自らを高めていく力をどのように身につけさせるか、今後さらに検討していく必要がある。

2023年3月20日

看護学部看護学科
4年次「学修到達度の確認」実施報告書

看護学部看護学科
学部長 高橋 泉

1. 実施要領

対象者：看護学部看護学科4年生 73名

実施期間：2023年2月20日（月）～2023年3月10日（金）

実施方法：Google Workspace for Education の Forms を用いた遠隔方式

2. 質問内容

添付資料のとおり、8つの学修指針について4段階の到達度で自己評価の回答を求めた。また、「自己評価コメント」として、「大学4年間の学修成果の自己評価に関することならなんでも結構です」という説明文を提示し記入を求めた。

3. 集計結果

回答者数 52名（71.2%）

集計結果の概要を表1に、また、学習指針ごとの各レベルの割合を図1に示す。自己評価の自由記載は表2として巻末に示す。

表1 集計結果一覧

| 学修指針 | 平均値 | 最頻値 | レベル（人数） | | | |
|------------|-----|-----|---------|------|------|------|
| | | | 1（可） | 2（良） | 3（優） | 4（秀） |
| 教養力 | 3.0 | 3 | 3 | 6 | 29 | 14 |
| 人間性 | 3.4 | 4 | 0 | 7 | 17 | 28 |
| コミュニケーション力 | 3.5 | 4 | 0 | 3 | 18 | 31 |
| 社会性 | 3.2 | 3 | 1 | 9 | 22 | 20 |
| 専門力 | 3.2 | 3 | 0 | 7 | 30 | 15 |
| 判断力 | 3.0 | 3 | 1 | 12 | 24 | 14 |
| 技術力 | 3.0 | 3 | 1 | 13 | 25 | 14 |
| 実践力 | 3.1 | 3 | 2 | 9 | 24 | 16 |

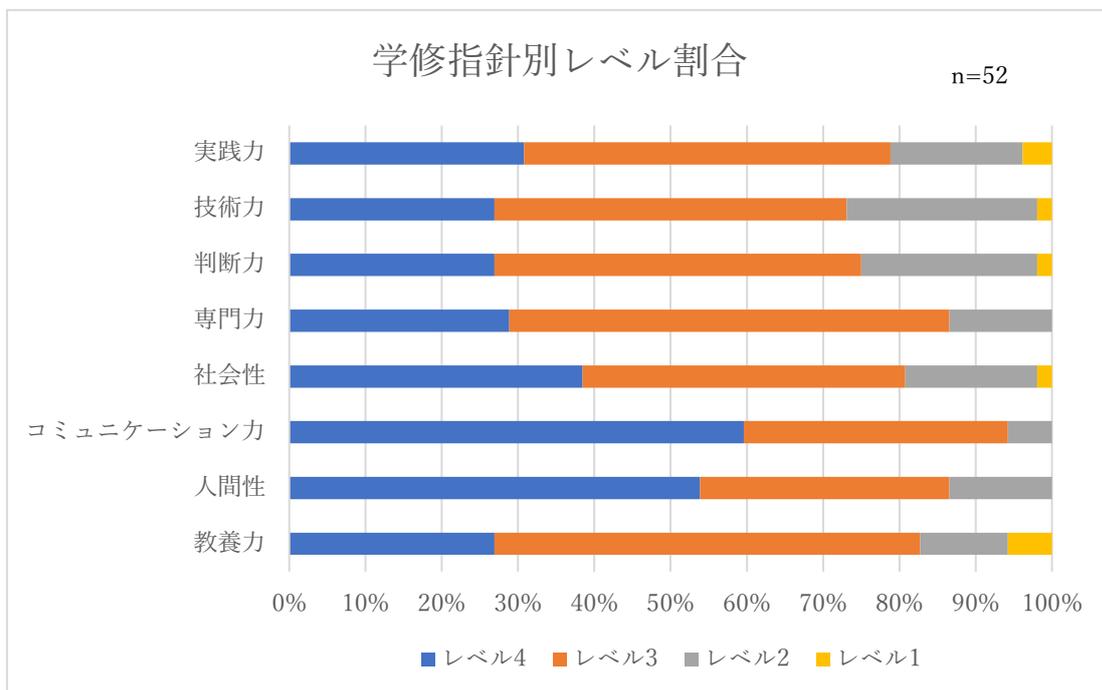


図1 学修指針別レベル割合

4. 検証結果

2022年度は、国家試験終了後に実施したため、回収率が71.2%と昨年のように100%には至らなかった。到達度の自己評価は平均値が3.0~3.5、最頻値が3あるいは4であることから、約7割の学生が4年間の学びによって学修成果が達成されたことが示唆された。

詳細をみると、平均値が3を下回っていた学修指針はなかったが、到達度レベル1と評価した学生が最も多かったのは教養力の3名であり、カリキュラムの構成上教養科目の履修は低学年のみであることが影響していると考えられる。人間性、コミュニケーション力、社会性、専門力については平均値も3.2~3.5と高く、人間性とコミュニケーション力は最頻値が4であった。必修23単位に及ぶ実習科目は、2年次よりCOVID-19感染拡大により実習時間の短縮や学内実習という制約を受けた学年であった。しかし、臨地実習を進めていく中で、患者や臨床指導者をはじめとする多様な人々とのかかわりを通して、人間性やコミュニケーション力、社会性、専門性が身についたと実感できた学生が多かったと考えられる。判断力、技術力、実践力についても、平均値が3.0~3.1であった。これらの項目も専門基礎科目から専門科目へと学修を積み重ね、3年次後期から4年次前期にわたる長期間の領域別実習や統合実習を通して、看護という専門職の基礎力について自分自身の成長を感じられたことが伺える。自己評価の自由記載欄にも実習を通して自らが成長できたという記述が多くみられた。

一方、判断力・技術力・実践力で到達度レベル1をつけた学生が1~2名存在したが、コ

コロナ禍において看護技術に不安を感じつつも、自由記述からは前向きな思考が培われていることが伺えた。学習到達度を確認した時期が、就職や進学が決まり、国家試験も終え卒業を待つのみであったことから、やり遂げたという達成感を抱くことができ、自己評価に反映されたとも考えられる。

5. 今後の課題

今回の対象者は、看護学部看護学科の2期生と卒業延期になった1期生である。2年次もしくは3年次年からコロナ禍の影響はあったものの、演習科目では感染予防策を講じた上で可能な範囲で対面授業を取り入れ、臨地実習では時間短縮や学内実習と組み合わせ、学生の経験の幅を増やしてきた。しかし、2020年度入学生は、1年次よりオンライン授業が主であり、基礎看護学の実習経験もわずかであり、領域別実習では専門力・判断力・技術力・実践力等に加えコミュニケーション力の不足が目立っていることも否めない。そのため学生個々が十分に学習成果の達成感を得ることができるよう、授業内容や方法の検証および臨地実習指導を丁寧に実施していく必要がある。

2022年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

4年次終了時の報告書

2023年3月27日

教育指針に関する検討委員会